延岡市文化財調査報告書　第43集

市内遺跡

平成22年度市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011

延岡市教育委員会

序　文

本書は延岡市教育委員会が国県補助を受け実施した、市内遺跡発掘調査事業の調査報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、豊富な水資源を利用した県内最大の電気化学工業集積地として栄え、教育文化・産業経済の牽引役を担っています。江戸時代は日本最南端の譜代藩、延岡藩の城下町として栄えました。その遺産の一つである延岡城跡を利用し、市民参加による「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」等が開催されています。また、近年の合併に伴い海・山・川という地域資源が加わり、観光振興も活発化しつつあります。各地に伝わる豊富な伝承芸能や農林水産資源を活かした、新たな活気あるまちづくりが始まったところです。

本書が文化財保護への理解を深める一助として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり宮崎県教育委員会をはじめ、地権者並びに開発事業関係者のご協力をいただきましたことに、深く感謝いたします。

平成23年3月

延岡市教育委員会

教育長　町　田　訓　久

例　言

1．本書は各種開発事業に伴い、延岡市教育委員会が国・県補助を受け、平成22年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
2．本年度は、9 箇所の試掘・確認調査を実施した。
3．昨年度調査を実施した、今井野遺跡(第13次)は本書に掲載した。
4．年度末に調査した延岡城（第26次）は次年度に報告する。
5．発掘現場での実測、写真撮影等の記録は発掘作業員の補助を得て、山田聡、小野信彦、尾方農一、高浦哲が行った。
6．整理作業は延岡市教育委員会で行った。本書に使用している遺構の製図、図面作成、出土遺物の撮影・実測・製図・図面作成は、敷石サヨ子、藤本千鳥、森有美、山本敬子の協力を得て、各現場の担当者が行った。
7．本書における方位は磁北を示し、レベルはすべて海抜高である。
8．本書の執筆は各担当者が行い、編集は甲斐が行った。
9．出土遺物及び調査記録類は、延岡市教育委員会で保管し、今後、展示公開する予定である。

Fig.1　延岡市位置図

本 文 目 次

第1章　はじめに

1．はじめに …… 1

2．調査の組織 …… 1

第2章　調査の記録

1．今井野遺跡（第13次）…… 5

2．天下第2遺跡 …… 7

3．野田町八田遺跡（第5次）…… 9

4．和田ノ奥遺跡…… 10

5．大下中須遺跡（第2次）…… 11

6．上多々良遺跡（第13次）…… 12

7．延岡城下町遺跡（第4次）…… 13

8．延岡城内遺跡（第21次）…… 15

9．円史跡南方21・22号墳 …… 21

報告書抄録

挿 図 目 次

Fig.1　延岡市位置図

Fig.2　平成22年度市内遺跡発掘調査地分布図(1/50,000) …… 3

Fig.3　今井野遺跡(第13次)位置図(1/15,000) …… 5

Fig.4　今井野遺跡(第13次)調査区配置図(1/2,500) …… 5

Fig.5　今井野遺跡(第13次)土層断面図(トレンチ-1/80) …… 6

Fig.6　今井野遺跡(第13次)出土遺物実測図(1/3) …… 6

Fig.7　大下第2遺跡位置図(1/15,000) …… 7

Fig.8　大下第2遺跡調査区配置図(1/2,500) …… 7

Fig.9　国史跡南方古墳群第10号墳測量図(1/500) …… 8

Fig.10　野田町八田遺跡(第5次)位置図(1/15,000) …… 9

Fig.11　野田町八田遺跡(第5次)調査区配置図(1/2,500) …… 9

Fig.12　和山ノ奥遺跡位置図(1/15,000) …… 10

Fig.13　和田ノ奥遺跡調査区配置図(1/2,500) …… 10

Fig.14　天下中須遺跡(第2次)位置図(1/15,000) …… 11

Fig.15　天下中須遺跡(第2次)調査区配置図(1/2,000) …… 11

Fig.16　上多々良遺跡(第13次)位置図(1/15,000) …… 12

Fig.17　上多々良遺跡(第13次)調査区配置図(1/2,000) …… 12

Fig.18　延岡城下町遺跡(第4次)位置図(1/15,000) …… 13

Fig.19　延岡城下町遺跡(第4次)調査区配置図(1/2,500) …… 13

Fig.20　延岡城下町遺跡(第4次)調査区土層断面図(1/80) …… 14

Fig.21　延岡城内遺跡(第21次)位置図(1/15,000) …… 15

Fig.22　延岡城内遺跡(第21次)調査区配置図(1/800) …… 16

Fig.23　延岡城内遺跡(第21次)トレンチ土層断面図(1/40) …… 17

Fig.24　延岡城内遺跡(第21次)遺物実測図(1) …… 18

Fig.25　延岡城内遺跡(第21次)遺物実測図(2) …… 19

Fig.26　国史跡南方古墳群第21・22号墳位置図(1/15,000) …… 21

Fig.27　国史跡南方古墳群第21・22号墳位置図(1/2,500) …… 21

Fig.28　円史跡南方古墳群第21～23号墳分布図(1/400) …… 22

Fig.29　国史跡南方古墳群第21・22号墳土層積み計画平面・断面図(1/80) … 23

表 目 次

第1表　平成22年度市内遺跡発掘調査地一覧…… 2

第2表　延岡城関連発掘調査一覧（平成17年度以降）…… 4

写 真 目 次

PL.1 今井野遺跡(第13次)近景(北から) …… 5
PL.2 今井野遺跡(第13次)上層断面(1トレンチ・東から) …… 6
PL.3 今井野遺跡(第13次)調査状況(1トレンチ・北から) …… 6
PL.4 今井野遺跡(第13次)出土遺物 …… 6
PL.5 天下第2遺跡調査風景 …… 7
PL.6 野田町八田遺跡(第5次)調査風景 …… 9
PL.7 和田ノ奥遺跡近景 …… 10
PL.8 大下中須遺跡(第2次)調査風景 …… 11
PL.9 上多々良遺跡(第13次)調査風景 …… 12
PL.10 延岡城下町遺跡(第4次)近景 …… 13
PL.11 延岡城下町遺跡(第4次)絵図 …… 14
PL.12 延岡城下町遺跡(第4次)石組遺構 …… 14
PL.13 明治元年前後延岡藩士族屋敷図(明治大学蔵) …… 15
PL.14 延岡城内遺跡(第21次)現況 …… 15
PL.15 延岡城内遺跡(第21次)トレンチ1 …… 20
PL.16 延岡城内遺跡(第21次)石垣 …… 20
PL.17 延岡城内遺跡(第21次)出土遺物 …… 20
PL.18 国史跡南方古墳群第21・22号墳調査風景 …… 21
PL.19 国史跡南方古墳群第21号墳 …… 22
PL.20 国史跡南方古墳群第22号墳 …… 22

第1章　はじめに

1.はじめに

延岡市は宮崎県の北部に位置し、九州山地や大崩・祖母・傾山系に源を発し日向灘に注ぐ五ヶ瀬川・北川・祝子川の下流域にあたる。これらの河川によって形成された沖積平野に市街地や住宅地、工業地帯が広がり、宮崎県北部の中心都市となっている。豊かな自然環境を利用し、古くから農林水産業が盛んである。また、豊富な水資源を利用した電気化学工業を中心とする県内有数の工業集積地でもある。中心市街地には近世延岡藩主の居城であった延岡城跡があり、「千人殺し」と呼ばれる高石垣を中心とした石垣群が残り、現代の都市景観と歴史的景観が融合する街並みが形成されている。

本年度における本市の埋蔵文化財保護行政は、景気の動向を反映し民間開発は大小問わずに、引き続き減少傾向にあった。一方、大規模な公共事業としては、天下町において「クレアパーク延岡」工業団地の造成が進捗中であり、それに伴う埋蔵文化財の発掘調査が継続的に行われている。また、古川町・岡富町では区画整理事業が進められている。これらの開発事業やその関連事業と埋蔵文化財保護との調整資料を得るために、試掘・確認調査を実施した。

2.調査の組織

調査主体	延岡市教育委員会	
	教　育　長	町　田　訓　久
	教育部長	甲　斐　享　博
	文化課長	大　島　紀世子
	文化課長補佐兼文化振興係長	伊　東　　優
	文化課文化財係長	山　田　　聡
庶務担当	文化振興係主任主事	松　岡　直　子
調査担当	文化課文化財係長	山　田　　聡
	文化財係専門員	小　野　信　彦
	文化財係主任主事	尾　方　農　一
	文化財係主任主事	高　浦　　哲
	文化財係主事	甲　斐　康　大

発掘作業員

安藤登美子、甲斐カツキ、甲斐さよみ、甲斐龍男、甲斐ひとみ、甲斐正子、甲斐如高、金子明市、川名育子、工藤洋子、白石良子、中川文夫、中島千賀、林田裕子、平岡誠一、柳田金實

整理作業員

敷石サヨ子、藤本千鳥、森有美、山本敬子

なお、調査にあたって地権者の方をはじめ、地区住民の方々、開発部局・関係機関及び開発事業者等に多くの配慮をいただいた。

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査開始日	調査終了日
1	犬下第2遺跡	犬下町603－3　外	宅地造成	5.0㎡	20100427	20100525
2	野田町八田遺跡（第5次）	野田町5305－3	宅地造成	16.0㎡	20100621	20100624
3	和田ノ奥遺跡（第1次）	大貫町6－1887－2　外	福祉施設建設	81.0㎡	20100623	20100629
4	犬下中須遺跡（第2次）	犬下町186　外	市道改良工事	13.5㎡	20100701	20100721
5	上多々良遺跡（第13次）	岡富町上多々良951－22　外	作業道建設・造成工事	26.0㎡	20100726	20100803
6	延岡城下町遺跡（第4次）	本町1－3－8	携帯無線基地局建設	18.0㎡	20100726	20100802
7	延岡城内遺跡（第21次）	東本小路121	所在の有無（照会）	71.0㎡	20100816	20100910
8	国史跡南方第21・22号墳	舞野町1481－7　外	崩壊対策	0㎡（測量）	20101224	20110107
9	延岡城（第26次）	本小路94-3	駐車場建設	調査中	20110301	調査中

第1表　平成22年度市内遺跡発掘調査地一覧

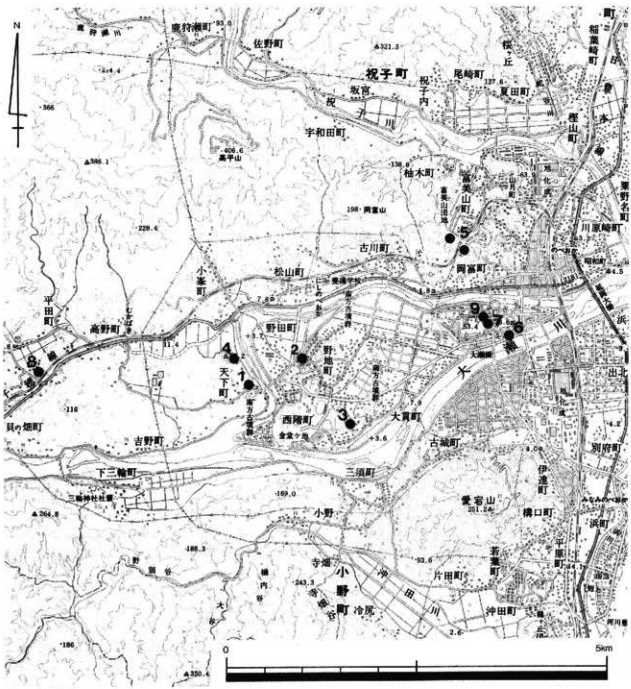


Fig.2　平成22年度市内遺跡発掘調査地分布図（1/50,000）

延岡城関連の調査は「延岡城」・「延岡城内遺跡」・「延岡城下町遺跡」として、それぞれ調査次番号も分けて調査を行っている。

平成17年以前の調査については、報告書『延岡城内遺跡Ⅲ』の中に一覧表が記載されているので、そちらを参照されたい。

遺跡名	調査次	名称（絵図等の推定地含む）	調査種別	調査年
延岡城	第24次	北内堀	本調査	平成17年
	第25次	北内堀	本調査	平成18年
	第26次	調査中	確認調査	平成22年
延岡城内遺跡	第14次	武家屋敷	確認調査	平成18年
	第15次	西之丸隣接地	確認調査	平成18年
	第16次	内堀隣接地	確認調査	平成19年
	第17次	北内堀	確認調査	平成19年
	第18次	京口門隣接地	確認調査	平成20年
	第19次	武家屋敷	確認調査	平成21年
	第20次	武家屋敷	確認調査	平成21年
	第21次	内堀	確認調査	平成22年
延岡城下町遺跡	第2次	照源寺跡	確認調査	平成19年
	第3次	照源寺跡隣接地	確認調査	平成20年
	第4次	水堀南岸	確認調査	平成22年

第2表　延岡城関連発掘調査一覧（平成17年度以降）

第２章　調査の記録

１．今井野遺跡（第13次）

所 在 地　延岡市天下町1208番地1外
調査原因　工業団地造成
調査期間　20100312 ～ 20100320
調査面積　112.5㎡
担 当 者　山田
処　　置　慎重工事

（1）位置と環境

今井野遺跡は、延岡市中西部に広がる標高約40ｍの平坦な丘陵上に位置し、国史跡南方古墳群の今井野支群（円墳3基）が立地している。周辺の発掘調査では、旧石器～中世にかけての集石遺構・竪穴式住居跡・溝状遺構をはじめナイフ形石器・須恵器などの土器・石器類が出土している。

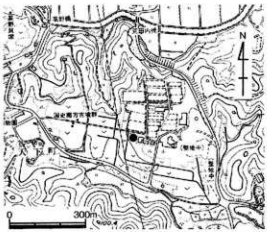


Fig.3　今井野遺跡（第13次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

今回の調査地は、元養鶏場の西側隣接地に位置する畑地で、西方向から東方向へ延びる非常に緩やかな谷筋にあたる。調査は、重機と人力により２箇所のトレンチを設定して実施した。

調査の結果、１トレンチからは良好な土層堆積を確認し、南北方向に非常に緩やかなＵ字状の層位を検出し、地表面と同様に東方向に下る緩やかな谷筋が存在していたことが判明した。一方、２トレンチでは全面にわたる撹乱を確認した。

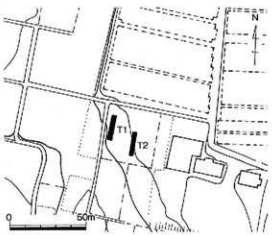


Fig.4　今井野遺跡（第13次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

１トレンチから少量の縄文土器片・土師器片が出土した。

（5）まとめ

今回の確認調査では、元養鶏場関連とみられる撹乱が確認されたこともあり、遺構・遺物は殆ど見受けられなかった。しかし、隣接地一帯は市内有数の埋蔵文化財包蔵地として位置付けられていることから、引き続き周辺地域の畑地開発等に留意する必要がある。

PL.1　今井野遺跡（第13次）近景（北から）

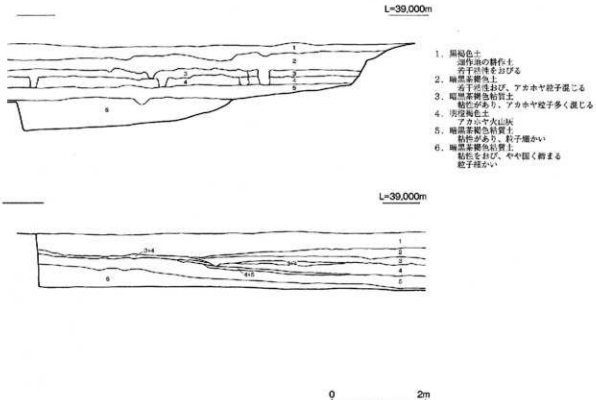


Fig.5 今井野遺跡（第13次）土層断面図（1トレンチ・1/80）

PL.2 今井野遺跡（第13次）土層断面（1トレンチ・東から）

Fig.6 今井野遺跡（第13次）出土遺物実測図（1/3）

PL.3 今井野遺跡（第13次）調査状況（1トレンチ・北から）

PL.4 今井野遺跡（第13次）出土遺物

2．天下第２遺跡

所 在 地　延岡市天下町603－3、604－1　外　　調査面積　5.0 ㎡
調査原因　宅地造成　　担 当 者　高浦
調査期間　20100427 ～ 20100525　　処　　置　工事実施

(1) 位置と環境

調査地は、市中心部から西へ約3.4kmの五ヶ瀬川が大瀬川と分岐し北へ大きく湾曲した部分に張り出した舌状丘陵に位置する。この丘陵には国指定南方古墳群10号墳が所在している。
第10号墳は、全長約80ｍの前方後円墳で大正２年に鳥居龍藏氏により調査が実施されている。
調査では主体部の粘土槨から直刀・鉄剣・玉類が出土している。

第10号墳は、前方部・後円部北側が削平を受けており、今回の計画地が前方部北裾付近にあたることから確認調査を実施した。

Fig.7　天下第２遺跡位置図（1/15,000）

(2) 調査の概要

今回の調査地点は、10号墳の前方部北裾付近にあたる。現況では後世の開発により丘陵を削平されており、阿蘇第４火砕流の堆積物が確認できた。調査は、すでに掘削を受けて容易に観察できる斜面地に遺構の存在がないか調査を実施した。

その結果、やはり阿蘇第４火砕流のみの堆積状況で遺構の存在は確認できなかった。

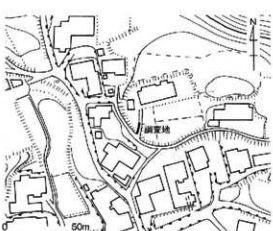


Fig. 8 天下第２遺跡調査区配置図（1/2,500）

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

なし

(5) まとめ

今回の調査では、遺構・遺物の確認はされなかったが、第10号墳の測量を実施した。

前方部・後円部がかなり掘削されており、周辺を含め早急な公有地化が必要である。

PL.5　天下第２遺跡調査風景

Fig.9 国史跡南方古墳群第10号墳測量図(1/500)

3．野田町八田遺跡（第５次）

所 在 地　延岡市野田町5305－3
調査原因　宅地造成工事
調査期間　20100621 ～ 20100624

調査面積　16.0㎡
担 当 者　小野
処　　置　慎重工事

（1）位置と環境

当遺跡は、市街地から西方に約2.5kmにある水田と畑地が広がる低丘陵上に位置する。この丘陵には、周辺に展開する国指定南方古墳群の一つである第37号墳が所在している。37号墳は墳丘が消滅した古墳と考えられ、阿蘇溶結凝灰岩製の家形石棺が露出している。

平成15年度に石棺が露出している丘陵周囲の市道改良工事に伴う確認調査を行い、近代の石垣跡を検出している。当地に宅地造成工事が予定され、遺跡の所在が予想されたため、確認調査を実施した。37号墳とは、市道を挟み直線で50mと離れていない。

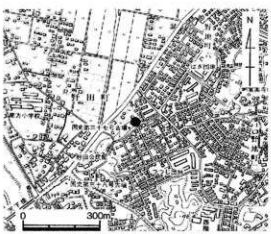


Fig.10　野田町八田遺跡（第５次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

調査は、工事により影響を受ける部分を中心にトレンチを設定して実施した。当該地は、以前水田であったところを埋め立てたということであった。工事は現地形を大きく変えず、また埋立て部分の下位に影響がないように実施されるとのことであったので、一部、地表下約１ｍまで慎重に掘り下げたが、遺構・遺物の検出はなかった。

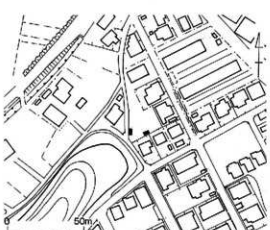


Fig.11　野田町八田遺跡（第５次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構・出土遺物

なし

（4）まとめ

今回の調査では、37号墳に関連する遺構やその他の新しい遺構は検出されなかったが、丘陵周辺には遺構・遺物の存在が予想されるため、今後の開発には十分注意しなければならない。

PL.6　野田町八田遺跡（第５次）調査風景

4．和田ノ奥遺跡

所 在 地　延岡市大貫町6－1887－2外2筆
調査原因　福祉施設建設
調査期間　2010623～20100629
調査面積　81.0㎡
担 当 者　尾方
処　　置　慎重工事

（1）位置と環境

和田ノ奥遺跡の所在する延岡市大貫町は、大瀬川の左岸に広がる地区である。その多くは大瀬川の後背湿地で、一部に低丘陵地が広がる。水田や畑地等の耕作地の多い地区であるが、市街地に近い立地から、現在は宅地化が進んでいる地区でもある。低丘陵地には、国指定史跡南方古墳群の大貫支群や大貫貝塚等の遺跡が点在している。また古代の駅、川辺の駅の推定地となっている。

和田ノ奥遺跡は、東へ向かって流れていた大瀬川が、大きく北に流れを変える北岸の低丘陵地上に位置する。この丘陵の北端に南方古墳第32号墳が所在する。

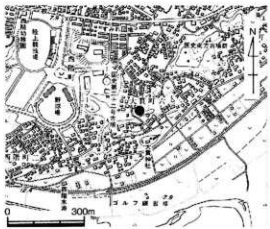


Fig.12 和田ノ奥遺跡位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

土層の堆積状況の確認に主眼を置き、トレンチを2箇所設定した。調査地は東に向かって傾斜する丘陵地である。トレンチ1は建物の建設予定位置の西端に設定。トレンチ2は地形の変化を把握するために、調査区中央部に東端に向かって設定した。トレンチ1では表土直下で白斑ローム層を検出。トレンチ2は約30cm下から始良丹沢火山灰層が検出される。調査区の東半分は埋土であり、旧地形も急激に傾斜しているため、遺構等の可能性は低いと判断される。

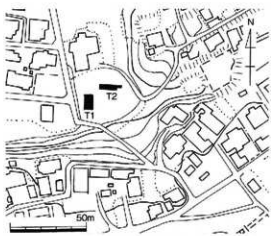


Fig.13 和田ノ奥遺跡調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし。

（4）出土遺物

土器片。全て小片で器種等については不明である。

（5）まとめ

始良丹沢火山灰層まで削平を受けており、また、対象地の東側は造成による埋土である。少量の土器片が出土したが、小片であり埋土に混入していたものである。旧石器等の出土は無く、当地に埋蔵文化財が所在する可能性は極めて低いと判断した。

PL.7 和田ノ奥遺跡近景

5．天下中須遺跡（第２次）

所 在 地　延岡市天下町186、519－1　外
調査原因　市道改良
調査期間　20100701 ～ 20100721
調査面積　13.5㎡
担 当 者　高浦
処　　置　工事実施

(1) 位置と環境

調査地は、市中心部から西へ約3.4kmの五ヶ瀬川が大瀬川と分岐し北へ大きく湾曲した部分に張り出していく丘陵地帯の北端付近に位置する。

調査地の約200ｍ北には、国指定南方古墳群第40号墳が所在している。また調査地西の丘陵には天下城山遺跡が所在している。

今回の計画地は、昨年に引き続く道路改良工事で、前回の調査では遺構は確認されていないが鉄宰・須恵器片・陶磁器片が僅かに出土している。

Fig.14　天下中須遺跡（第２次）位置図(1/15,000)

(2) 調査の概要

今回の調査地点は、天下城山遺跡の丘陵東北部にあたる。一部谷が入りその筋に現道が走っているが、調査地は道路で掘削された一段上部にあたる。

調査は、遺構の残存状況を確認するため、開発予定地内に3本のトレンチを設定し調査を実施した。

その結果、トレンチ1・2は客土による盛土が確認され、トレンチ3は阿蘇第4火砕流の堆積物が確認された。

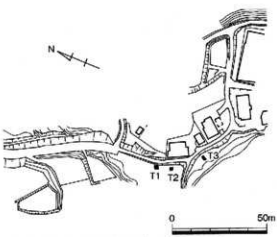


Fig.15　天下中須遺跡（第2次）調査区配置図(1/2,000)

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

客土中より剥片・須恵器片・陶磁器片等

(5) まとめ

今回の調査では、遺構・遺物の確認はされなかったが、周辺調査では弥生時代の溝遺構・古墳・中世城郭が確認・所在していることから、引き続き周辺開発に留意が必要であろう。

PL.8　天下中須遺跡（第２次）調査風景

6．上多々良遺跡（第13次）

所在地　延岡市岡富町上多々良951－22　外　　調査面積　26.0㎡
調査原因　作業道建設・造成工事　　担当者　小野
調査期間　20100726 ～ 20100803　　処置　工事削平

（1）位置と環境

五ヶ瀬川の北岸に位置する。北から派生する舌状丘陵と、その丘陵に挟まれた平野部で構成される。

付近一帯は岡富山と呼ばれ、古くから箱式石棺群等が発見されている。平成9年度から「岡富・古川地区区画整理事業」に伴う埋蔵文化財の試掘・確認・本調査が実施され、多くの遺構・遺物が出土している。

調査地点は、区画整理事業地の北東側に位置し、廃線となった旧高千穂鉄道の隧道を挟んで南側に張り出す舌状丘陵上に位置する。標高は約46ｍである。

Fig.16　上多々良遺跡（第13次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

調査は、工事により削平を受ける平坦部分を中心にトレンチを設定して実施した。

旧高千穂鉄道の隧道を挟んで北側では、表土を剥ぎ取ると20cmほどで地山（淡黄褐色粘質土）が検出された。遺構・遺物は検出されなかった。

南側では、表土下部にアカホヤ層の堆積が若干認められるところがあったが、その下位は北側と同じ地山（淡黄褐色粘質土）が検出された。

遺構・遺物は検出されなかった。

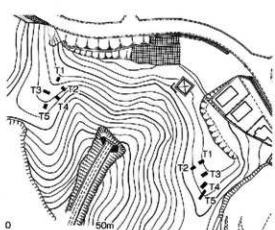


Fig.17　上多々良遺跡（第13次）調査区配置図（1/2,000）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

なし

（5）まとめ

今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかったが、周辺部にはその存在が十分予想される。

開発には慎重な対応が必要であろう。

PL.9　上多々良遺跡（第13次）調査風景

7．延岡城下町遺跡（第４次）

所 在 地　延岡市本町１－３－８
調査原因　携帯電話無線基地局建設
調査期間　20100726 ～ 20100802
調査面積　18.0㎡
担 当 者　尾方
処　　置　慎重工事

（1）位置と環境

延岡城（縣城）は1601 ～ 1603年にかけて高橋元種によって築城された。元種は関ヶ原の戦いに参加し、鉄砲の普及による戦法の変化から石垣や水堀を主体とする城郭の必要性を認識し、新たな城郭の整備を行った。築城にあたって天然の要害を利用している。延岡市の中心部を流れる五ヶ瀬川、大瀬川の2つの大川を外堀とし、その中州に存在する独立丘陵を選地している。この丘陵に内堀を巡らし、石垣を築き曲輪を作りだしている。この時に、現在の延岡市街地の町割の原型となる城下町整備も着手され、城の東側に北町、中町、南町の三町が作られ、北小路、本小路、桜小路などが整備された。その後、元種は罪人隠匿を理由に改易され、有馬氏が肥前国日野江（現長崎県北有馬町）から入封し、直純、康純、永純（清純）と三代続いた。その間に縣城は延岡城に改名し、城下町も大幅に拡張整備された。直純の代には、元町、紺屋町、博労町の三町が完成した。康純の代には城の修復に伴う大整備が行われ、本丸東側に三階櫓、本丸登り口に二階門櫓が完成している。また、柳沢町も整備され、いわゆる延岡七町が完成した。

今回の調査地である本町は、南町よりさらに南、柳沢町に挟まれた通りにあたる。本町は明治維新前後の絵図（PL.11）では、水堀跡が描かれており、その他の時期の絵図でも一貫して水堀が描かれている。この堀は延岡城の内堀の水を下流方向に流し、最終的に川へと貫流させる重要な機能を持った堀であった。明治の廃城に伴いその機能を失い、大正期には埋立てられ、堀川通りと呼ばれ昭和初期から本町通りと呼ばれていた。1933(昭和8)年から本町となった。調査地は絵図等で確認すると、堀の南岸に当たる。絵図では土居並びに町地と表現されている。現況は駐車場であるが、戦前の地図等を見ると個人住宅が建っていたようである。

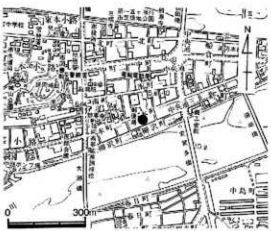


Fig.18　延岡城下町遺跡（第４次）位置図（1/15,000）

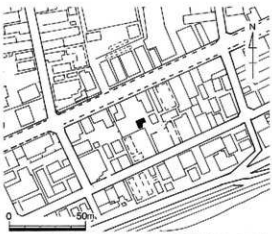


Fig.19　延岡城下町遺跡（第４次）調査区配置図（1/2,500）

PL.10　延岡城下町遺跡（第４次）近景

（2）調査の概要

建物が敷地の南端に沿って建てられる計画であることから、南側に重点を置きトレンチを設定した。調査地と隣接する南側の敷地は、約40cm程低くなっている。トレンチは1箇所を設定し、広く遺構を探るとともに、土層の堆積状況の把握に努めた。

駐車場としてアスファルト舗装がなされており、重機によって除去を行った。その後、黄褐色岩砕による埋土（約50cm）を除去すると、簡易な舗装面が検出され石組を検出した。石組は3方向に検出された（PL.12）。第1の石組みは、東西方向に伸びる石垣で、阿蘇溶結凝灰岩の切石を組み合わせている。石垣表は南向きで、高さは約1mを測る。第2の石組は、第1の石垣に直交する形で接する。直方体に加工された阿蘇溶結凝灰岩を一段のみ直線で並べている。第1の石組みとほぼ同一の石材で時期差は無いようにみえる。第1の石垣は西端で急に途切れている。その西端から西に20cmのところに、第3の石組みがある。石組みは一段で、上部に簡易舗装が施されている。この舗装上に炭化した土層が有り、戦災の跡の可能性も考えられる。第1の石組み（石垣）の外面を掘り下げるが、炭化物や廃棄瓦が約1mほど埋まっており、火災等の廃棄の可能性が考えられる。

（3）検出遺構

現代の石垣、石組み。

（4）出土遺物

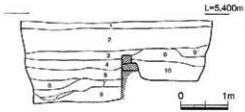
特になし。

（5）まとめ

石組み等を検出したが、いずれも供伴する遺物が新しく、昭和初期頃のものと判断した。また、現地表から深さ約180cmまで、掘り下げるも現代の遺物等が確認された。戦災やその後の開発で、近世面は大きく削平を受けていると判断した。

PL.11 延岡城下町遺跡（第４次）絵図

PL.12 延岡城下町遺跡（第４次）石組遺構



1 アスファルト舗装
2 黄褐色岩砕層
3 暗灰褐色粘質土層
4 暗褐色土層（炭化物が混じる）
5 暗褐色粘質土層（炭化粒・レンガ片が混じる）
6 暗灰瓦層
7 暗灰褐色砕礫土層
8 炭化物層
9 暗灰褐色粘質土層
9' 黒褐色土層（軟くしまる）
9' 炭化粒・焼土粒・瓦片等が混じる
10 裏ごめ層（40cm大の炭石割石、30cm大の丸礫、小砂利、炭化木材等）

Fig.20 延岡城下町遺跡（第４次）調査区土層断面図（1/80）

8．延岡城内遺跡（第21次）

所 在 地　延岡市東本小路121番・120番2　　調査面積　71.0㎡
調査原因　所在の有無について（照会）　　担 当 者　尾方
調査期間　20100816～20100910　　処　置　現状保存

（1）位置と環境

延岡城は1603年に築城された、宮崎県内有数の近世城郭である。築城にあたって天然の要害を利用する適地が行われ、延岡市の中心部を流れる五ヶ瀬川、大瀬川を外堀として活用し、その中州に存在する独立丘陵に築かれている。その後、現在の市街地の町割りの原型となる延岡七町と呼ばれる城下町が、50年近い年月をかけて形作られている。1871年の廃城令によって、その機能を失うまで延岡藩主の居城であった。

現在は城山公園として市街地に緑を提供し、憩いの場として親しまれている。

今回の調査地は、延岡城の東側の登城口周辺にあたる。現存する延岡城の絵図では、全ての時期で内堀が描かれている。この内堀は、延岡城の内堀全体の水位を調整する機能を持つものと思われ、時期によっては空堀で描かれている。延岡城第17次調査で、その内堀の一部を確認しており、今回の調査でも内堀跡存在が充分に考えられる。明治元年前後延岡藩士族屋敷図（1868年／明治大学蔵）（PL.13）では、武家屋敷（上田内膳）・御植物方が並んでいる。

周辺の主な調査は以下のとおりである。

①延岡城第17次調査

平成11（1999）年に調査が行われた。現在の延岡市中小企業振興センター南側の道路整備に伴う調査で、内堀跡が検出されている。

②延岡城第19・21・23次調査

平成12（2000）年～平成14（2002）年にかけて調査を行われた。現在の城山公園南駐車場の整備に伴う調査で、米蔵・武具蔵の基壇跡等が検出されている。

延岡城及び延岡城内遺跡の調査では、現存する絵図史料の正確さが実証されている。上記の調査においても検出された遺構（内堀・基壇等）の位置が、絵図史料から想定される位置とほぼ合致し、その正確さを裏付ける結果となった。

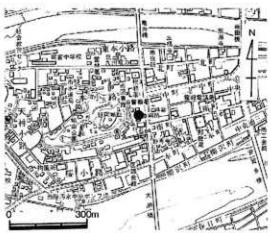


Fig.21　延岡城内遺跡（第21次）位置図（1/15,000）

PL.13　明治元年前後延岡藩士族屋敷図（明治大学蔵）

PL.14　延岡城内遺跡（第21次）現況

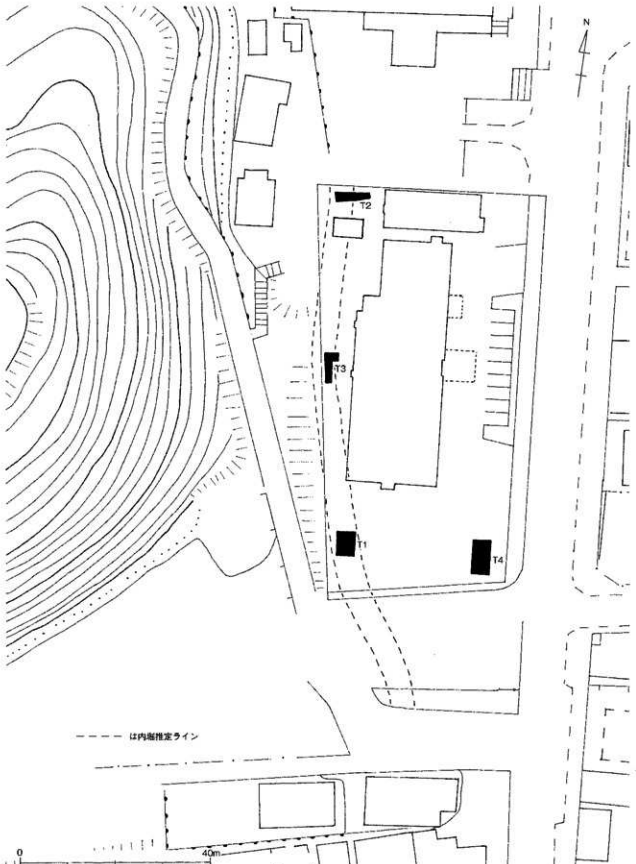


Fig.22 延岡城内遺跡（第21次）調査区配置図（1/800）

（2）調査の概要

今回の調査は遺構（特に内堀）・遺物の検出、土層の堆積状況の確認を目的としトレンチ法による調査を採用した。調査区の設定においては、現存する絵図資料及び延岡城第17次の調査結果を参考に内堀の位置の把握できるよう設定を行った。また内堀以外の遺構も考慮し、調査対象地の全体的な土層状況の把握に努めた。しかし、裁判所であるため立入禁止の区間、駐車場用地の確保等も考慮する必要があり、裁判所職員の立会いのもと設定を行った。駐車場確保のため可能な限り調査箇所が同時進行にならないように、調査時の工程等についても協議を行った。調査箇所は4箇所を設定した(Fig.22)。各トレンチの調査概要は以下のとおりである。各層の詳細については省略する。

トレンチ1は、調査対象地の南西に設置した調査区である。現地表より約150cmの深さまでは、近代以降の客土層（第1層～第6層）であった。第7層～第8層も近代層である可能性が高い。第9層～第12層は粘質土層と砂質土層の互層を成しており、水の流れがあったことを伺わせる。第13層上面で地表から約260cmである。

トレンチ2は、調査対象地の北西に設定した。現地表より約50cmまでは近代以降の攪乱土（第1層～第3層）であった。第4層～第5層は、近世～明治にかけての陶磁器等が出土する。第6層からは土器片が出土し、近世以前の遺跡の所在が伺える。第6層上面は地表から約130cmである。トレンチの西側に掘込みを確認した。絵図資料にある、延岡城内堀跡と推定される。

トレンチ3は、調査対象地の西に設定した。トレンチ1で検出された内堀跡の方向の確認に主眼を置いた。地表下約70cmで石垣を検出した。この石垣が最終段階の堀跡となると判断される。

トレンチ4は、調査対象地の東南に設定した。現地表下約40cmで、灰石（阿蘇溶結凝灰岩）製の近現代のものと判断される建物基礎を検出する。現地表より約160cmまでは客土（第1層～第7層）である。第8層～第10層までは近世～明治にかけての遺物包含層であった。特に第10層は遺物の量が多く、遺構の存在する可能性が高い。

（3）検出遺構（PL.16）

延岡城内堀

延岡城第17次調査の結果と今回の調査結果を基にすることで、内堀の位置をある程度推定することが可能となった。

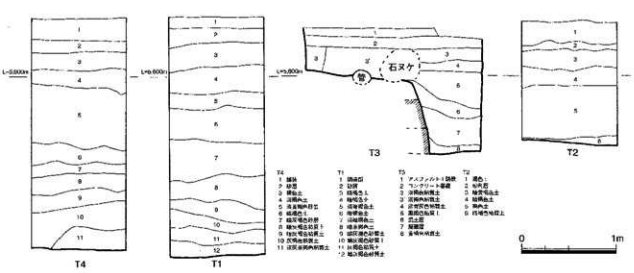


Fig.23 延岡城内遺跡（第21次）トレンチ土層断面図（1/40）

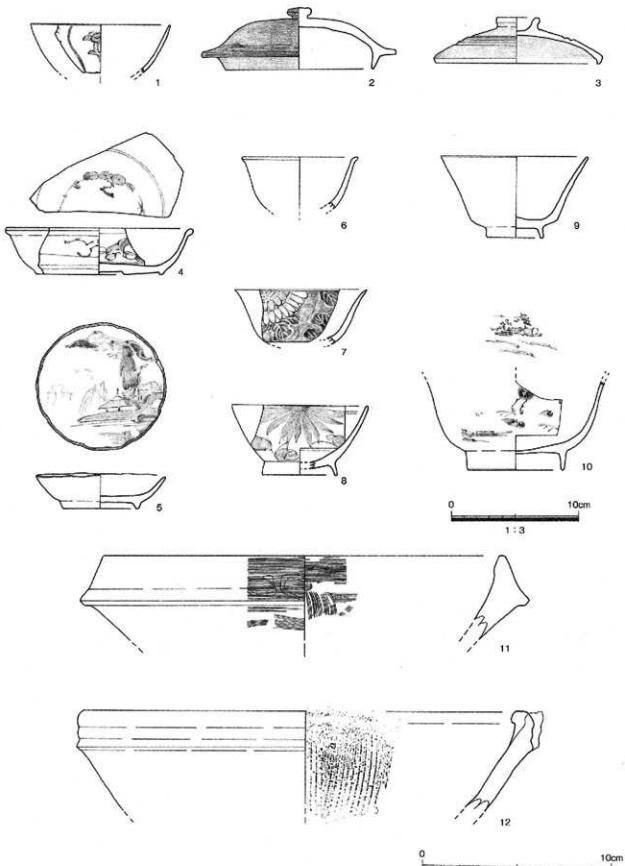


Fig.24 延岡城内遺跡（第21次）遺物実測図（1）

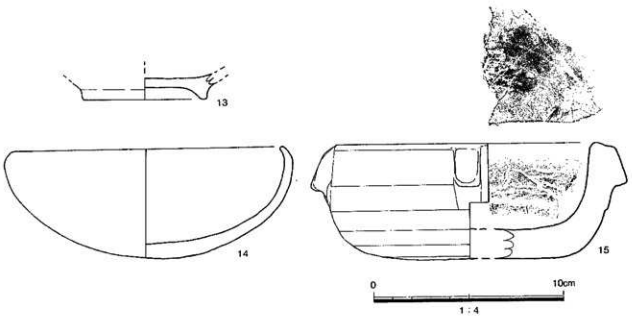


Fig.25 延岡城内遺跡（第21次）遺物実測図（2）

（4）出土遺物

1はトレンチ1の7層出土である。小型の広東碗で外側面に区削り線を引き、その中に施文している。2、3は陶器蓋でトレンチ2の4層出土である。2は外面にのみ鉄釉を施釉している。3は口縁部、つまみ口縁部は無釉である。外面に2重の沈線が巡っている。4は皿でトレンチ4の9層出土である。口縁部は折り返して玉縁を成し、底部は蛇ノ目凹形高台である。内外面ともに施文されている。5～10はトレンチ4の10層出土である。5も皿で、型打成型の皿で口縁部が波型を呈す。口錆で見込みいっぱいに山水文様を施している。焼成温度が低かったのか、釉が融けきれていない。6、7は端反碗で、6は内外面ともに細かい貫入が見られる。7は口縁部内面に施文されており、その下部と見込みに1重の圏線が巡る。外面は墨を利用し、草花を施文している。8は広東碗で、見込みに1重圏線で銘を有する。口縁部内面に2重圏線を有し、外面は高台境に1重の圏線を有し、草花が施文されている。9は青白磁碗である。口縁部にむけて直線状に開き、やや外反する。内面見込みはやや凸形を呈し、ハマ痕が残る。高台畳付は釉剥ぎである。10は鉢で高台畳付釉剥ぎ、見込みにハマ痕が残る。見込みに山水文を施し、外面には鳥が描かれている。11、12は擂鉢である。11はトレンチ1の7層出土で、無釉で外面はナデ調整である、擂目は櫛描きで1単位が5本である。引きっぱなしで先端を揃えていない。12はトレンチ2の4層出土である。口縁部外面に2重に沈線が巡っている。擂目は1単位が9本の櫛描きで、間隔は空けずに施されている。

13は土師器の高台付の椀である。トレンチ2の4層出土である。風化が激しく調整は不鮮明である。14は土師器の鉢で、トレンチ2の6層出土である。丸底で口縁部が内湾する。ほぼ完出土しているが、風化が激しく調整は不鮮明である。15は滑石製石鍋でトレンチ2の4層出土である。外面にススが付着している。復元で口径が14.1cmで器高は5.1cmである。縦型の方形の瘤状の把手を有する。把手の断面は不等辺台形をなしている。

(5) まとめ

トレンチ2及びトレンチ3で、内堀跡と想定される掘込み及び石垣を検出した。またトレンチ1の第9～12層は、堀内の埋土の可能性が高い。これらの結果と延岡城第17次調査の結果と併せて、より詳細な内堀の位置の想定が可能となった。(Fig.22)

現地表から約50～160cm前後で近世～近代の包含層が検出される。出土遺物等から考察すると、幕末～明治にかけてのものと考えられる。その他の出土遺物では、滑石製石鍋や土師器等が出土しており、近世以前の遺跡の所在も伺える。近世以前の遺物は特にトレンチ2に多く、中でも第6層に顕著であった。検出された遺構・遺物から、調査対象地の全域に近世特に幕末期の遺跡が存在することが確認された。また歴史時代に遡る遺物も出土しており、調査対象地の北側に古代の遺跡が存在する可能性が高いと判断される。

PL.15　延岡城内遺跡(第21次) トレンチ1

PL.16　延岡城内遺跡(第21次) 石垣

PL.17　延岡城内遺跡(第21次) 出土遺物

9．国指定史跡南方古墳群第21・22号墳

所 在 地	延岡市舞野町1481−7、1480−2	調査面積	0㎡（測量）
調査原因	墳丘崩壊対策による測量	担 当 者	高浦
調査期間	20101224 ～ 20110107	処　　置	保存

（1）位置と環境

調査地は、行縢山から南へ派生した丘陵が、さらに東へ向かい派生する舌状丘陵で行縢川右岸に位置する。標高は約49ｍを測る。南には国道218号線と旧高千穂鉄道が東西に走っている。

この丘陵は、旧石器時代から古墳時代の遺跡が数多く分布しており、赤木遺跡として認識されている。

今回の調査は、この丘陵上に所在する国史跡南方古墳群第21・22号墳の測量調査であるが、21号墳は平成6年に、22号墳は平成15年に範囲確認調査が実施され、周溝の一部が確認されている。

Fig.26 国史跡南方古墳群第21・22号墳位置図(1/15,000)

（2）調査の概要

今回の調査は、墳丘の緊急崩壊対策工事に伴う測量である。22号墳は石棺の一部が露出しており22号墳は墳裾が抉れ、石棺の一部が露出している。今回は、これまでの調査から時間が経過していることから、工事前の墳丘の記録保存と、計画策定・今後の保存整備の資料を得るために調査を実施した。

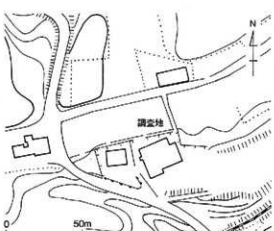


Fig.27 国史跡南方古墳群第21・22号墳位置図(1/2,500)

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

なし

（5）まとめ

今回は、墳丘や主体部である石棺の崩壊を防止するために緊急的な措置として植生土嚢積み工事を実施する。

今後は、早急に公有地化を進め保存整備を実施しなければならない。

PL.18 国史跡南方古墳群第21・22号墳調査風景

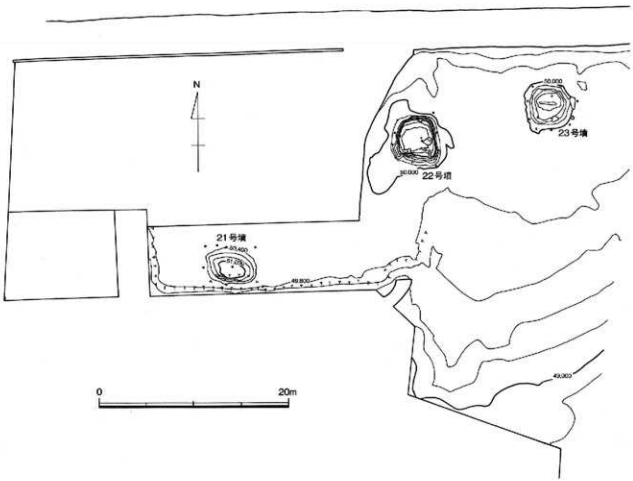


Fig.28　国史跡南方古墳群第21～23号墳分布図（1/400）

PL.19　国史跡南方古墳群第21号墳

PL.20　国史跡南方古墳群第22号墳

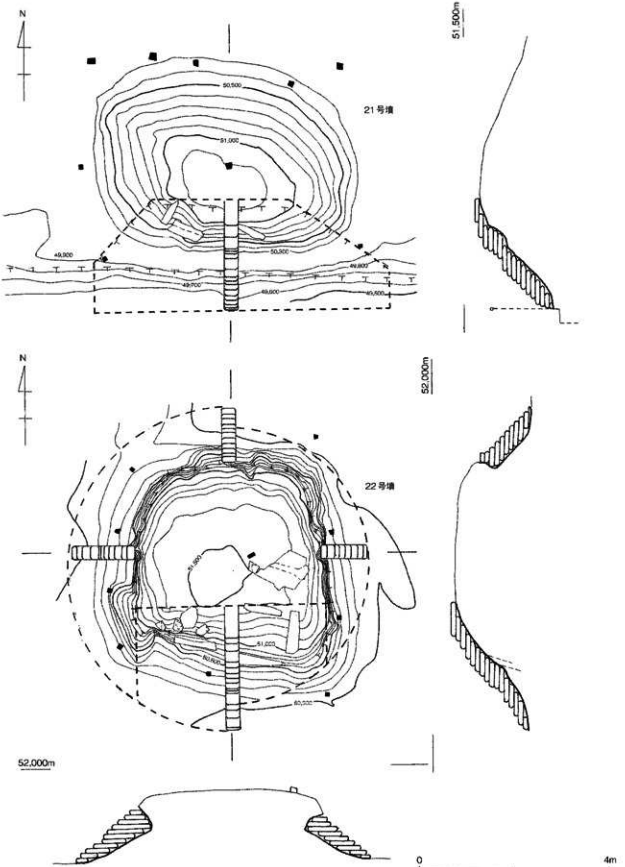


Fig.29　国史跡南方古墳群第21・22号墳土壌積み計画平面・断面図（1/80）

報告書抄録

ふりがな	しないいせき
書名	市内遺跡
副書名	平成22年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第43集
著者名	山田　聡、小野信彦、尾方眞一、高濵　哲、甲斐康大
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路２番地１
発行年月日	2011年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
今井野遺跡（第13次）	延岡市天下町1208番地1外	452033	4041	32° 34′ 23″	131° 37′ 02″	2010/0312～2010/0320	112.5㎡	工業団地造成
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
散布地	旧石器～中世		無		縄文土器・土師器			

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
天下第2遺跡	天下町603－3外	452033	4057	32° 34′ 25″	131° 37′ 51″	2010/0427～2010/0525	5.0㎡	宅地造成
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
古墳	古墳		無		無			

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
野田町八川遺跡（第5次）	野田町5305－3	452033	4072	32° 34′ 37″	131° 38′ 18″	2010/0621～2010/0624	16.0㎡	宅地造成
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡	縄文～古墳		無		無			

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
和田ノ奥遺跡	大貫町6…1887…2外	452033	4078	32° 34′ 15″	131° 38′ 57″	2010/0623～2010/0629	81.0㎡	福祉施設建設
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
散布地	縄文・弥生		無		土器片			

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
天下中須遺跡（第2次）	延岡市天下町186	452033	4064	32° 34′ 06″	131° 38′ 38″	2010/0701～2010/0721	13.5㎡	市道改良工事
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
散布地	古墳		無		剥片・須恵器・陶磁器			

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上多々良遺跡（第13次）	岡富町上多々良951－22外	452033	3012	32° 35′ 23″	131° 39′ 39″	2010/0726～2010/0803	26.0㎡	作業道建設・流成工事
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
散布地	古墳		無		無			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城下町道跡（第4次）	本町1－3－8	452033	3026	32° 34′ 48″	131° 40′ 02″	2010/0726～2010/0802	18.0㎡	携帯無線基地局建設
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡	近世・近代		現代の石垣・石組み		無			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城内遺跡（第21次）	東本小路121	452033	3018	32° 34′ 51″	131° 39′ 52″	2010/0816～2010/0910	71.0㎡	所在の有無について（照会）
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
城跡	近世		内堀		陶磁器・擂鉢・土師器・滑石製石鍋			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
国史跡持方21・22号墳	舞野町1481－7外	452033	4514－2 4514－3	32° 34′ 24″	131° 35′ 58″	2010/1224～2011/0107	0㎡	墳丘崩壊対策のための測量
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
古墳	古墳		古墳		無		測量調査のみ	

市内遺跡

平成22年度市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

延岡市文化財調査報告書43集
2011年3月31日

発行：延岡市教育委員会
宮崎県延岡市東本小路2番地1

印刷：明巧堂印刷株式会社
宮崎県延岡市古川町82－10